

SHINYOKOHAMA REHABILITATION HOSPITAL

病院のご案内



病院長あいさつ



院長 松宮 英彦

新横浜リハビリテーション病院は回復期リハビリテーションに特化した病院として2007年に開設いたしました。2000年の介護保険法の施行と同時に生まれた回復期リハビリテーション病棟は約四半世紀を経て全国的に拡充され、多くの患者さまが在宅生活を送られるようになった現在では、回復期のみならず在宅生活期の患者さまへの対応も私たちの重要な使命であると考えております。その使命を果たすべく、2023年9月に104床の増床をいたしました。内訳は回復期リハビリテーション病棟 42床、地域包括ケア病棟42床、緩和ケア病棟20床で合計230床となり、在宅生活を送られる方を含めたより幅広い患者さまの受け入れが可能となりました。

回復期リハビリテーション病棟では引き続き、チーム医療にもとづく質の高いリハビリテーションを集中的に提供することで、患者さまへ最大限の機能回復とADLの向上をもたらすことに尽力し、より多くの患者さまが住み慣れた地域で幸せに生活できるよう全力で支援いたします。地域包括ケア病棟では「時々入院、ほぼ在宅」を応援し、当院の一番の強みであるリハビリテーションをフルに活用して在宅支援に従事してまいります。緩和ケア病棟では、「一人一人を大切に」の理念のもと、心のこもった緩和ケアを行ってまいります。

また、退院後においても訪問リハビリテーションおよび通所リハビリテーションによる途切れることのない、継続的なリハビリテーションの提供が可能となっており、外来診療においては一般的な内科診療の他に専門外来（摂食・嚥下外来、義肢・装具外来、ボツリヌス療法外来）を設置することで、幅広い患者さまに対し長期的かつ包括的な支援を行ってまいります。

いついかなる時も患者さまに寄り添い、当院の機能を最大限に提供させて頂くことで地域の皆さまへ貢献してゆく所存です。どうぞよろしくお願ひいたします。

病院理念

いついかなる時も患者さまに寄り添い、良質で頼られる医療・介護を提供することで地域社会に貢献します。

基本方針

1. 患者さま一人ひとりの尊厳を重んじ価値観を尊重します。
2. 患者さまの主体的な医療への参加を推進します。
3. 質の高い安全な医療・介護を提供します。
4. 思いやりの気持ちを忘れず、患者さま中心のチーム医療を推進します。
5. 病病・病診連携を推進し包括的なリハビリテーションを提供することで地域社会に貢献します。
6. すべての職員が自己研鑽に努め、専門職としての誇りと自信をもって働ける病院づくりをします。

病院概要

病院名	新横浜リハビリテーション病院	併設施設	訪問看護ステーション 居宅介護支援センター
所在地	〒221-0864 神奈川県横浜市神奈川区菅田町2628-4		通所リハビリテーション 訪問リハビリテーション
開院日	2007年12月		新横浜健診センター
病床数	230床		
	回復期リハビリテーション病棟 168床	認定	日本リハビリテーション医学会研修施設
	地域包括ケア病棟 42床		NST稼働認定施設
	緩和ケア病棟 20床		日本医療機能評価機構認定病院(3rdG:Ver.3.0)
診療科目	リハビリテーション科 内科 外科 整形外科 脳神経外科 緩和ケア内科		

暮らせるように支援します。

地域の人々が幸福に

思いやりと信頼の医療を提供し、



新横リハの“リハビリテーション”

特長

在宅復帰を第一に

モーニング・イブニングでのリハビリの実施や必要な方に対しては「外出練習」や「退院前訪問指導」なども積極的に行い、患者さまやご家族と共に在宅復帰できる方法を模索しています。患者さまの自己実現の可能性を広げるため、退院後に安心して在宅生活を送っていただくために、チーム・部門一丸となっています。

強み

365日リハビリが提供できる2担当制を実施

2担当制とは、患者さまへの適切なリハビリテーションの提供とスタッフ教育のため、必要な方には各療法(POS)が午前と午後1回ずつリハビリを提供・実施するものです。午前と午後で二人のセラピストが日常的に患者さまの治療に当たっているため、治療などの相談や意見交換が活発に行え、多面的な治療を行っています。



2023年9月にオープンした新病棟。回復期リハビリテーション病棟42床、地域包括ケア病棟42床、緩和ケア病棟20床を増床し、230床の病院となりました。在宅復帰をお手伝いする3つの病棟であらゆるステージに対応し、さらに、地域の皆様とのつながりを深め、地域密着型病院として地域医療を支えます。



近年、リハビリ医療にロボットの開発が盛んになっています。当院では平成28年から「Welwalk WW-1000」(藤田保健衛生大学とトヨタ自動車株式会社の共同開発)を臨床研究の段階から導入しています。脳血管疾患の片麻痺患者を主対象とし、重度麻痺患者でも多歩数の歩行が可能となっています。超低速から歩行できるトレッドミル、転倒予防・懸垂免荷ハーネスで安全を確保して、下肢の支持性はロボット脚が補助し、振り出しも滑らかに膝を曲げながら補助をしてくれます。

在宅復帰を第一に

脳血管疾患、大腿骨頸部骨折等の疾患における急性期後の医学的・社会的・心理的なサポートが必要な患者さまに対し、専門職種がチームを組み、集中的なリハビリテーションを実施し、心身ともに回復した状態で自宅や社会に戻っていただくことを目的とした病棟です。



回復期リハビリテーション病棟とは

患者さまに対して、それぞれの目的に合わせた身体機能の回復や、日常生活に必要な動作の改善を図り、できる限りご自身の力で生活できるよう支援し、寝たきり防止と家庭や社会への復帰を目的としています。

回復期リハビリテーション病棟の受け入れ体制

最大3時間のリハビリだけでなく、起床から就寝までの間、食事や着替え、歯磨きや整容、排せつなど日常的な動作も含めた生活そのものをリハビリとらえた生活援助の支援をします。夜間の排泄時の介助なども含めた、24時間365日のサポートが大きな特徴です。他にも、安心してご自宅に帰れるよう、退院前に患者さまと一緒にご自宅へ伺い、家庭内の改修・補助器具導入の調査や自宅の段差などに合わせて強化したい訓練の見極めを行う家屋調査。また、退院後に使える介護保険申請のお手伝いや各種サービスの調整など、在宅への復帰に向けての支援を行います。



入院までの流れ

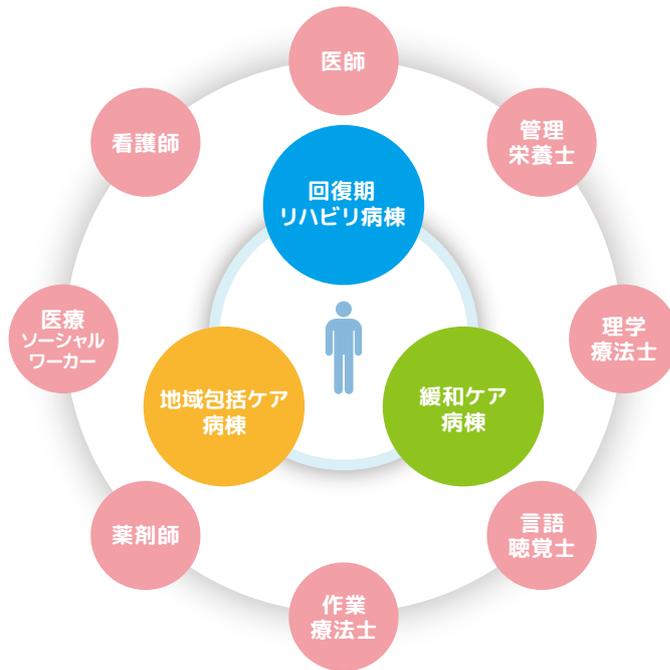


総合相談センター

TEL 045-474-5566

FAX 045-474-5556

リハビリ専門病院としてチーム一丸となり取り組みます



各専門職は病棟配置

チーム医療を行う際に重要な「情報共有」「相談」や「意見交換」が行いやすく、スタッフ全員が問題点や目標などを理解し、同じ視点で患者さまに接することができます。医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、医療ソーシャルワーカー、薬剤師、管理栄養士による多職種でのカンファレンスを行い、各職種が個別に作成したプログラムを実施しています。また、各担当者（看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、医療ソーシャルワーカー）の中で、チーム全体をまとめ引っ張っていくチームリーダーを一人選出するチームリーダー制を導入し、チーム内のメンバーが同じ目標を共有しながらアプローチできるよう努めています。



四季を感じるリハビリ庭園

患者さまの心安らぐ場として、四季を感じられる緑豊かなリハビリ庭園を備えております。患者さまの心身ともに健やかに過ごせるよう様々なリハビリを提供します。

開設より積み重ねてきた確かなリハビリテーションを地域包括ケア病棟に入院中の患者さまにもしっかり提供させていただくことで、より良い状態で在宅の生活に戻っていただきます。

「新横リハ」独自の
地域包括ケア病棟実現へ



地域包括ケアとは
 「医療や介護が必要な状態になっても、可能な限り『住み慣れた地域で患者さまに応じた』自立した生活』を続けることができるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が包括的に確保される」という考え方です。

地域包括ケア病棟の受け入れ体制

○ 急性期病院からの転院

治療が一段落し、症状や病状が安定した方が安心して地域の暮らしに戻れるよう、在宅復帰支援やリハビリを行います。

○ 自宅や施設からの入院

急性期・専門医療機関での対応までは必要がない、自宅や施設で療養されている方が今後も継続して地域で生活していくために、リハビリを行います。介護されているご家族さまの休息時間の確保・負担軽減のための入院にも対応しております。



入院までの流れ



総合相談センター

TEL 045-474-5566

FAX 045-474-5556

地域包括ケア病棟では 次のような方を受け入れています

急性期の治療を終えた方

- 検査・治療によりADLが低下し在宅復帰に向けてリハビリや介護保険サービスの調整が必要な方
- 在宅酸素療法・喀痰吸引・経管栄養・血糖測定・インスリン注射・ストマケア・創処置(熱傷・がん性自壊創含む)・褥瘡処置等継続した医療ケアが必要な方の家族指導や介護・医療サービスの調整
- がん治療後、在宅(施設)復帰のためのリハビリや医療・介護サービス調整
- がん治療(内服による化学療法)中の管理

在宅生活(自宅・施設)の継続が一時的に困難となった方

- 肺炎、尿路感染、脱水で点滴、酸素等の治療を必要とする方
- 腰椎圧迫骨折などの保存療法の方
- がん治療(内服による化学療法)中の管理
- 嚥下機能低下による食事摂取が困難な方

「新横リハ」のリハビリテーション

短期集中リハビリ

今もリハビリをしているけど、物足りない方へ入院し集中したリハビリテーションを提供します。



ボツリヌス療法リハビリ

脳卒中等の後遺症で手足がつっぱりづらい方へ治療とリハビリを提供します。



摂食・嚥下リハビリ

年齢とともに飲み込みにくくなった…
すぐむせてしまう…
そんなお悩みの方に評価とリハビリの提供をします。



転倒予防リハビリ

最近よく転んでしまう…とお悩みの方に予防のためのリハビリを提供します。



地域包括ケア病棟では、患者様の生活に「リハビリテーション」を活かして頂くことで、さまざまなニーズに応じていきます。
入院中はリハビリテーションの他、医療・看護・栄養の管理、そしてさまざまな相談支援にも力を入れて、ご利用の患者様のお役に立てるようサポートしていきます。

下肢装具作製リハビリ

最近装具が合わない、壊れてしまった…
そんな方に装具の再作製・調整・歩行訓練を入院し一括で行えます。



介護休憩(レスパイト)

一時的に患者様に入院していただくことで、ご家族様にリフレッシュして頂けます。もちろん患者様も入院中は身体状況に合わせたリハビリを受けることができます。



ポストアキュート

急性期治療後、自宅や施設に戻るには不安がある方が入院し自宅や元の施設に戻ることができるようにリハビリや在宅環境設定やサービス調整を行います。



サブアキュート

自宅や施設で体調を崩して、入院治療が必要な方が早期(相談当日)に入院し、速やかに自宅復帰ができるようにします。



おひとりおひとりを大切に

患者さまやご家族が求める医療は体の治療・ケアだけではありません。迫りくる死への不安や恐れ、大切な人を失う喪失の恐れ、今後の生活への不安等…
また、同じ人生は一つとしてなく、おひとりおひとりが歩んでこられた人生の中で大切にしていることを緩和ケア病棟のスタッフも同じように大切にしていきます。



緩和ケア病棟とは

痛み、息苦しさ、だるさ、など「からだ」の苦しみ。不安、悲しみ、など「こころ」の苦しみ。がん患者さまの抱える苦しみをやわらげ、ご家族ともにケアをいたします。緩和ケアにより「からだ」「こころ」の苦しみが和らいだら、退院し自宅に帰ることもできます。

緩和ケア病棟の受け入れ体制



入院までの流れ



※1 診療情報提供書と検査データの他、当院書式「診療情報提供のお願い」も含まます
(当院ホームページの地域医療連携→当院でお願いしている書類のダウンロード)

※2 病院見学・MSW面談は初回面談と同じ日に行うこともできます

※3 MSWとは医療ソーシャルワーカーの略で「病気に伴う経済・社会・心理的な課題を社会福祉の立場から支援する職種」です

紹介元病院に通院中、または訪問診療を受けている場合は、当院入院までそのまま診療を継続していただけます。状況が変化し、入院希望となりましたらご連絡ください。

総合相談センター

TEL 045-474-5566

FAX 045-474-5556

入院基準

- 悪性腫瘍(がん)で、意識障害などを除きご本人・ご家族が病名・病状を理解されていること
- 入院治療が必要な状況で、ご本人・ご家族が緩和ケア病棟の入院を希望されていること
- 治癒・腫瘍縮小のための治療・心肺蘇生・延命治療・死を早める治療を望まれていないこと
- 面談を受け、当病棟の説明・方針に、ご同意いただけること
- 当病棟で対応困難な医学的状況ではないこと

上記を満たし、かつ、以下の入院形態に当てはまること

- 1) 終末期の入院(数日～数ヶ月)
- 2) 症状コントロール(原則2～3週間)
- 3) 在宅への準備の入院(原則2～3週間)
- 4) レスパイト入院(原則1～2週間) *レスパイト入院とは、介護家族の休養のための入院です
- 5) お試しの入院(原則3～7日間)



スタッフステーション



個室



家族室



デイルーム

併設施設

● 訪問看護ステーション新横リハ

専門の看護師・理学療法士が利用者さまのご家庭を訪問し、病状や療養生活を専門家の目で見守ります。適切な判断に基づいたケアとアドバイスで、24時間365日対応し、在宅での療養生活が送れるように支援いたします。

● 新横浜健診センター

主に企業や学校を中心に直接お客さまの事業所や指定の会場に健診車がお伺いし健康診断を実施しています。生活習慣病予防健診・定期健診・特殊健診・予防接種などご要望により幅広いニーズにお応えします。

● 居宅介護支援センター

ご自宅において、介護保険のサービスなどが必要となった方に、サービスの利用に必要なケアプランの作成や、それに伴う相談・調整を行います。住み慣れた地域やご家庭で、その方らしく生活を送ることができるよう、支援いたします。

● 通所リハビリテーション

自宅で生活されている方が施設に通ってリハビリを受ける場です。一人一人に適切なリハビリ提供をするため、すべての利用者さまに「個別リハビリ」を提供しています。理学療法士・作業療法士を中心に、利用者さまの自立した生活を目指してサポートしていきます。

● 訪問リハビリテーション

当院の患者さまが退院後も自宅で安心してリハビリを受けることができるように設置されました。地域のケアマネジャーから依頼を受け、通所困難な要介護者や在宅でリハビリが必要な人に対して、作業療法や理学療法などを提供し、自立した地域生活をサポートいたします。





アクセス

- 【電車】
- 新幹線・JR横浜線・横浜市営地下鉄(ブルーライン)新横浜駅よりシャトルバス 約15分
 - 横浜市営地下鉄(ブルーライン)片倉町駅より横浜市営バス 約8分

- 【バス】
- 横浜市営バス36系統「神明社入口」下車 徒歩4分

- 【シャトルバス】
- JR新横浜駅から無料送迎バスが運行しております。ホームページから運行情報をご確認ください。

- 【車】
- 首都高速神奈川7号横浜北線 新横浜ICより14分

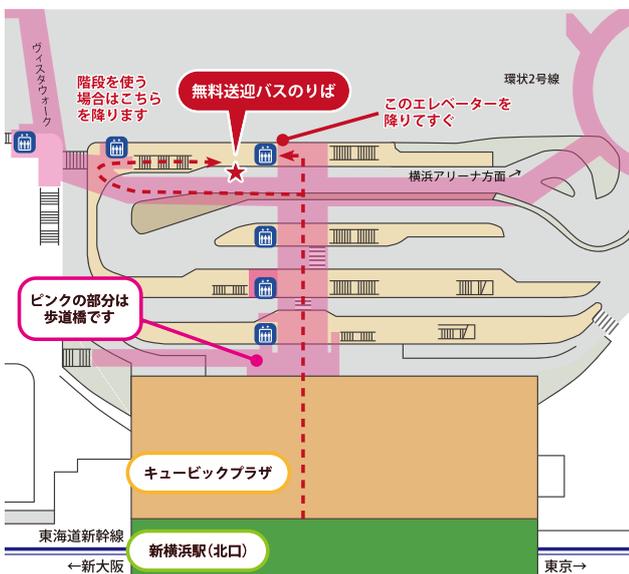


病院アクセスはこちら

<駐車場について>

外来患者さま及び入院患者ご家族さま —— 2時間まで/220円(以降30分220円)
 ご面会の方 —— 30分/220円(入庫後24時間最大600円)

無料送迎バスのりば



JR新横浜駅・北口から「キュービックプラザ」を抜けると、駅前バスターミナル上の歩道橋に出ます。歩道橋を直進し、つきあたり左手のエレベーターを降りてすぐが、当院の送迎バスのりばです。(階段を使用する場合はエレベータ手前の十字路を左に進み、右側にUターンした先の階段を下りてください)

